

循環器科

研修実施責任者

東京労災病院循環器科部長 酒井 英行

研修指導医

東京労災病院第二循環器科部長 浅原 敏之

1 プログラムの目的と特徴

東京労災病院循環器科では2年間の前期臨床研修を修了し、将来、循環器専門医を志す医師に対し、後期臨床研修プログラムを用意しています。

循環器内科医として専門的な知識と技術の修得ならびに循環器疾患全般の治療について研修を行います。

後期研修期間を通じて、日本内科学会認定医ならびに日本循環器学会専門医を取得することを目標としています。

2 身に付けるべき基本能力

- (1) 医療面接から重要な循環器疾患の可能性を考えることができる
- (2) 身体診察で胸部の所見と循環動態の把握を的確に行うことができ、記載ができる
- (3) 症状や兆候から検査計画を立て、適切に指示を出すことができる
- (4) 各種循環器系検査の所見を評価できる
- (5) 診察や検査の結果をみて診断を考えることができる
- (6) 代表的な循環器疾患に対する初期治療ができる
- (7) 循環器疾患に対する適切な指導、管理ができる
- (8) 症例プレゼンテーションを状況に応じてできる

3 経験すべき症状・病態

- (1) 浮腫
- (2) 失神
- (3) 胸痛
- (4) 呼吸困難
- (5) 心肺停止
- (6) ショック
- (7) 心不全（急性、慢性）

4 経験すべき疾患

- (1) 狭心症
- (2) 急性冠症候群
- (3) 心筋症
- (4) 不整脈（主要な頻脈性、徐脈性不整脈）
- (5) 心臓弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）
- (6) 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）
- (7) 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
- (8) 高血圧症（本態性、二次性）
- (9) 感染性心内膜炎
- (10) 肺性心疾患（肺塞栓症）

5 身につけるべき検査・治療手技

- (1) 冠動脈造影および左室造影
- (2) 右心カテーテル（Swan-Ganz カテーテル）
- (3) 心エコー図検査
- (4) 運動負荷心電図
- (5) 心臓核医学検査
- (6) ペースメーカー植え込み術およびジェネレーター交換
- (7) 冠動脈形成術
- (8) IABP 挿入